

むすぶ【結ぶ】

動詞

紐を結う、束ねる、つなげる、固まる、組み立てる、約束する、終わり

◆ 日本の「結ぶ」文化

ちいさなころ、初めて蝶結びができたときめきを、いまだ鮮明に覚えている方も多いことでしょう。わたしたち日本人にとって、「結ぶ」という言葉は「繋ぐ」「縛る」とは違ったどこか特別な意味を持ち、日々にげなく使っている言葉や動作にも「結ぶ」というキーワードが多く秘められています。これは、「何かを結ぶとその結び目に魂が宿る」という日本の伝統的な信仰に存在した、「結び」への畏敬の名残りとされています。

◆ 水引きの起源

お世話になった方へ何か贈り物をするときに使用され、古くから親しまれている水引き。起源は、神様との縁を結ぶという意味を込めて、神様へのお供え物にかけられるようになった風習に由来するといわれています。はじめは色のないものが主流でしたが、中国からの渡来品が紅白の麻糸で縛られていたことに由来して、水引きに色がつくようになったとか。今では芸術的な要素も加わり、様々な色と形の水引きが存在しています。

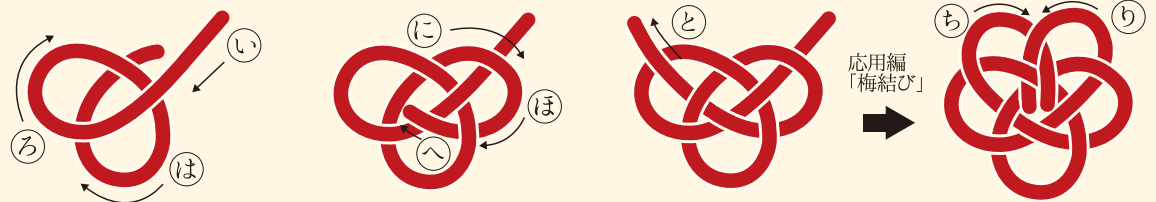
◆ 心をこめて結う水引き

和の魂が宿る水引きを、想いを心を込めて結ってみませんか？水引は本数・色でその意味合いが異なります。慶事には紅白・金銀・赤金、本数は5本・7本・9本の奇数を使用します。特に婚礼関係には5本2束の10本を使用します。弔事には白黒・黄白・青白・銀、本数は2本・4本・6本の偶数を使用します。濃い色が右、薄い色が左になるように結びます。結び方には、主に「花結び」と「結び切り」の2種類があります。花結びは、別名「蝶結び」と呼ばれるポピュラーな結び方で、ほどいて何度でも結べるため、何度繰り返してもよいことを祝う場で用います(出産、長寿、開店など)。結び切りは、二度とあってはならない慶事・弔事に用います(結婚、弔事、病気・災害見舞いなど)。

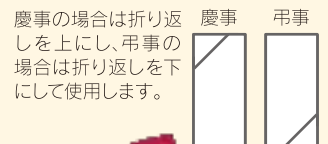
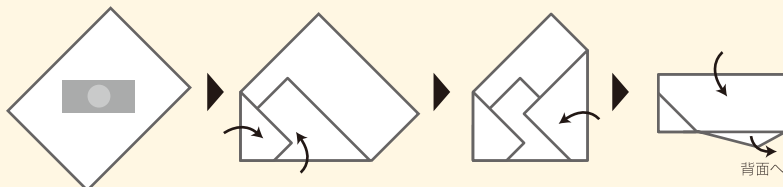
あわじ結び

※水引き用の紐の他、包装用のコードなどでも代用できます。
※紐が柔らかいとうまく結えない場合があります。結う前に洗濯のりを水で溶いて紐にスプレーすると扱いやすくなります。

解きづらいため、繰り返してはならないお祝い・お悔やみに使われる結び切りの一種です。左右の輪が互いに結び合い、両端を引くとさらに強く結ばれることから、これからも末永くおつき合いてゆきたいという意味も併せ持ちます。関西地方ではどんな時でもあわじ結びを用います。応用編の梅結びは、見た目の愛らしさもあって、和小物の飾りに使用されることも。しおりなどに使ってもかわいらしい結びです。



中包みのたたみ方



上包みのたたみ方

